

令和6年度トヨタ工業学園卒業式 豊田会長あいさつ

卒業生の皆さん、ご家族の皆様、ご卒業おめでとうございます。

また、ご多用の中、愛知県の大村知事をはじめ

多くのご来賓の皆様に、ご臨席賜り厚く御礼申し上げます。

トヨタ自動車の創業者、豊田喜一郎は「従業員は家族」だと言いました。

その言葉どおり、私にとって、ここにいる卒業生一人ひとりが大切な家族です。

私は、社長から会長になっても

「卒業式には必ず参加する」と決めておりました。

それは、私が「社長や会長」としてではなく、

皆さんの「おやじ」として、

わが子の晴れ姿を見る想いで卒業式に来ているからです。

この壇上から見える皆さんの姿勢、私を見つめる眼差し。

本当に頼もしくなりましたね。

皆さんのこれまでの頑張り、努力がその姿に表れていると思います。

そして、ご家族の皆様。

大切なお子様をお預けいただき、ありがとうございました。

学園での厳しい訓練を乗り越え、これまで成長できたのは、

どんな時でも、ご家族の皆様が、卒業生の心の支えになってくださったからです。

本当にありがとうございました。

そして、指導員の皆さん。

卒業生は、皆さんの鏡だと思います。

手本となる大人の姿を、その行動でお示しいただいていることに

心より感謝申し上げます。

高等部の皆さん、

今年の学年キーワードは「超本気で『がむしゃら』に動く」でしたね。

皆さんは、大相撲・宮城野部屋の稽古を見学し、

「アスリートが本気で動く姿」を目の当たりにしたと思います。

どれだけ息が上がっても

一切手を抜かず、四股やテッポウなど自ら成長しようと動かれていたはずで

す。稽古を見た後、皆さんは、自主的に稽古場をきれいに4Sしてくれました。

初めて訪れた場所で自主的に誰かのために動く。

これは、なかなかできることではありません。本当に誇らしく思います。

ありがとう。

専門部の皆さんは

インド学園と交流してくれました。

「世界の仲間と連絡をとり、

同じ課題にどうチャレンジしているかを学んでほしい」

私の年頭挨拶でのお願いをさっそく実践してくれました。

交流中は、言葉が通じず苦労をしたと聞きました。

言葉は大切です。

でも、皆さんには、もっと大切なものがあります。

皆さんの大先輩の河合おやじが、

トヨタグループの「おやじの会」で、こう言われていました。

「たとえ会社が違って、俺たちは、同じ匂いがするから5分で仲良くなれる。

そして明日からは、電話一本で助け合える関係だ。」

実際は、5分ではなく、3秒の世界だと思います。

自分に技能がある人は、相手が技能を身に付けるのに

どれだけ苦労したのか分かります。

だから、言葉にしなくても通じ合えるのだと思います。

皆さんには、世界中の仲間と「技」で会話ができる。

そんな人になってほしいと私は願っています。

先月、トヨタグループのビジョンを発表しました。

現場のリーダーの一人として、学園からも代表者が出席してくれました。

「次の道を発明しよう」。

「次」は、「未来」を

「発明」はグループの「原点」をあらわしています。

では、「道」とは、何でしょうか？

答えは、皆さんの中にあります。

卒業生 249 名 249 通りの「道」があって良いと思います。

その方が面白い。私はそう思っています。

最後に、私から豊田章一郎名誉会長の言葉を

贈らせていただきます。

「新しいモノをつくるために、知恵を絞り、汗をかき、

時間を忘れて熱中する。その瞬間が極めて楽しい。

苦心した末にモノができあがったとき、

それを誰かが使って、喜んだり、助かったりしたとき、

このうえない喜びと感動に包まれる。

だからもっと勉強し、働いて、もっと良いモノをつくろうと思う」

皆さん、もっと勉強して、技を磨いて、もっと良いモノをつくってください。

その先に、きっと「次の道」があると思います。

皆さんがどんな道を発明するのか、私は楽しみにしております。

皆さん、ご卒業おめでとうございます。

令和6年2月20日

トヨタ自動車株式会社

代表取締役会長

豊田章男